



ADACHI CITY MUSEUM
足立区立郷土博物館

千住宿 400年

文化遺産調査特別展

／ 関連事業 ／

千住まちなか展示 11月中、千住の各地に千住ゆかりの作品（レプリカ）が登場します！

【開催場所】

- | | | |
|----------------|------------|-------------|
| ・味問屋 明日香 北千住本店 | ・カフェ寛味堂 | ・和食 板垣 |
| ・ルミネ北千住 | ・仲町の家 | ・お休み処 千住街の駅 |
| ・千住宿歴史プチテラス | ・足立区立中央図書館 | ・横山家住宅 |

※開催日時や入館・入店方法は開催場所によって異なります。

郷土博物館のホームページをご覧ください。直接会場へお問い合わせください。

※横山家住宅では、レプリカではなく現品を展示します。



▲ 展示例 十二カ月花卉図屏風（村越向栄）



ADACHI CITY MUSEUM
足立区立郷土博物館

開館時間 午前9時から午後5時まで（最終入館は午後4時30分）
休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日が休館）
入館料 一般200円（高校生以上）／団体（20名以上）は半額
70歳以上の方（年齢確認が必要）、
障害者手帳所持者およびその介助者1名は無料。
交通案内 JR亀有駅北口、東京メトロ千代田線北綾瀬駅、
つくばエクスプレス八潮駅南口よりバス。無料駐車場あり。

所在地 東京都足立区大谷田5-20-1
電話番号 03-3620-9393
FAX 03-5697-6562



千住宿 400年

文化遺産調査特別展

2025 10.21 火 → 2026 1.11 日

祝

千住宿400年

時を超え、今に遺る千住のキセキ。

足立区

千住宿
SENJU JUKU
400th
since 1625

千住宿の開宿400年を寿ぐ

寛永2年(1625)、日光道中の最初の宿場町(初宿)として開宿した千住宿は、交通の要所として、経済、文化ともに大いに栄えました。その繁栄が残した文化遺産が、今、注目を集めています。

千住宿開宿400年を祝い、長い時を超えて現代に伝えられた、千住ゆかりの逸品たちが一堂に会する特別展を開催いたします。

1

氷川神社(千住四丁目) 山車(区指定有形民俗文化財)
明治16年(1883)/氷川神社蔵(千住四丁目・当館寄託)

千住四丁目の氷川神社に伝わる山車は、区内に唯一の江戸型山車です。江戸型山車は、元は江戸城の門をくぐるために考えられた様式で、三層に分かれていることが特徴です。人形の上がる三層目と、四方幕で飾られた二層目の枠が、上下にスライドし、一層目の囃子台の後ろの枠内に納まる構造になっています。人形は、源頼朝の前で舞を舞った静御前で、江戸時代から明治まで続いた人形師・鼠屋五兵衛の作と伝えられています。



▲二層目に飾られる四方幕



▲青龍(東)、白虎(西)、朱雀(南)、玄武(北)の像と組み立てられた鉾の様子

3

日光祭礼式絵巻
年代不明/当館蔵(高尾家文書)

千住の高尾家に伝来した、徳川家康の命日に行われる、日光東照宮の祭礼での神輿渡御を描いたとされる絵巻です。模写とみられますが、長さ29mにもわたり渡御の様子が丁寧な彩色で描かれています。



▲日光祭礼式絵巻(部分)

2

氷川神社 四神像

天保4年(1833)/氷川神社(千住仲町)蔵

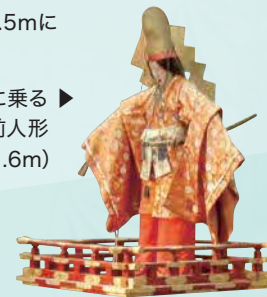
千住仲町に鎮座する氷川神社には、天保4年に奉納された四神鉾が伝えられています。四神とは、中国の神話に登場する東西南北の守り神、青龍・白虎・朱雀・玄武のことで、

四神の像と支柱や幡を組み上げると5mほどの高さの鉾となります。

※本展では、四神の像と剣鉾を展示。

▲山車は高さ7.5mにおよぶ

最上(三層目)に乗る
静御前人形
(高さ約1.6m)



▲高さ約74cm

4

千手観音立像 御前立【初披露】

令和5年(2023)/勝専寺蔵

千住の地名の由来になったとされる、秘仏・千手観音立像の、礼拝のための像(御前立)です。42の腕を持つこの千手観音像は、仏師・彫刻家として有名な東京藝術大学名誉教授の數内佐斗司氏が手掛けました。本展で初披露されます。

5

黒漆塗仏二枚胴具足【初披露】
江戸時代前期/当館蔵

現在の千住旭町の旧家に伝来した甲冑です。

千住宿には、商人や町人でありながら、武士の身分も持つ、「二重身分」の人々がいたことが一つの特徴です。この甲冑は、千住宿の旦那衆の武家志向を象徴する歴史的な資料です。



◀組み上げた状態で約128cm

6

釜鳴神事絵馬

文政5年(1822)/千住河原町 稲荷神社蔵

千住河原町の稲荷神社で行われていた神事の様子が描かれている絵馬です。

当時の千住の町人は、公式の場で脇差を腰に差し、袴を着ることが幕府から許されていました。絵馬にはその通りの姿が描かれており、武家の装束を身につけた人々も登場します。



7

報知新聞 奥羽御巡幸図会 千住駅 御小休之景
三代歌川広重 明治9年(1876)/当館蔵

明治9年、明治天皇が東北地方へ出発する際、皇后が千住まで見送りに訪れ千住三丁目の旅館で御小休されたときの一場面です。皇后に千住の子女が菖蒲の花を献上する様子が描かれています。



8

木蓮に菜の花図扇【初披露】
鈴木其一 江戸時代後期/当館蔵

「琳派」の画風を江戸で広めた酒井抱一の最も有名な弟子、鈴木其一が木蓮と菜の花という春の草花を描いた直筆の扇です。其一は千住の人々と深く交流した絵師で、さまざまな作品を残しています。

※本作品は、株式会社サンベルクス様の寄付金により収蔵いたしました。



音声ガイド

展示作品の一部に音声解説があります。

ご自身のスマートフォンや携帯電話で聞くことができます。

※館内でご利用の際はイヤホンをご使用ください。

ご自身のイヤホンの持参をおすすめします(貸し出しイヤホンあり)。